

施設だより 8月号

先月中旬からどんどん気温が上がり、毎日が35度前後の猛暑に驚かされます。この異様な暑さに「つちくれ農園」の作物も茶色い葉っぱが目立ちます。ただ、元々田んぼだったので、必要な時は水を入れることが出来、なす、里芋たちが生き返りひと安心です。

先週、さくらの仲間が平和公園へ折り鶴を届けに行ってきました。今回は、さくら・のぞみの取り組みを紹介します。

のぞみ

菅原さんの提案で6月末から皆様から心を込めて折られた折り鶴を千羽にまとめました！のぞみの仲間全員で力を合わせ時間をかけて、皆様の思いを千羽鶴と言う一つの形にしました。針に糸を通し一羽一羽丁寧に繋げていきました。のぞみの部屋で日ごとに増えていく千羽鶴を見て、のぞみの仲間たちは「食堂に飾ってみんなに見てもらおう！」と、とても誇らしげでした。そして、ついに千羽鶴完成！！千羽鶴をのぞみの仲間から、さくらの仲間へ受け渡しバトンタッチ！さくらさん、平和公園へみんなの思いの詰まった千羽鶴の献納よろしくお祈りします！！



さくら

そんなのぞみの思い、つちくれの思いが詰まった千羽鶴をさくらが受け取りました。さくらでは、平和学習に行くことが決まった時から、少し平和について考えてもらうことにしました。平和に関する絵本の読み聞かせやDVD鑑賞をし、佐々木貞子さんが「病気が治るように」という願いを込めて折り鶴を千羽折っていたことを知り、「じゃあ、みんなも願いを込めて持っていこう」という意味がないよね」ということに。さくらの仲間1人1人が自分の願いを自分の言葉で紙に書きました。

そして、7月26日。災害級ともいわれる猛暑の中、到着した仲間は、「暑い・・・」という声。しかし、保冷剤を首の後ろに巻き、準備万端になった仲間たちはバテることなく、しっかり千羽鶴を持って原爆の子の像へ。そこで、つちくれみんなで折った千羽鶴をしっかりと献納してきました！その後は、平和の灯の前に。

「なんで火がずっと燃えとるんかね？」と尋ねると、目の前の解説文を仲間が読み始め、「核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けよう」という意味があることを知りました。そこで「じゃあこの火は燃えとったほうがいい？それとも消えたほうがいい？」と再び尋ねると、「消えたほうがいい！」と答えられたことがとても強く印象に残っています。

少し歩き、次は原爆死没者慰霊碑へ。この石室の中には原子爆弾に被爆された方の名簿が納められていること、つまりこれは原爆で亡くなった方のお墓ということを知り、つちくれで学習してきた仲間たちは、静かに手を

合わせることができました。次に、平和記念資料館東館の隣にあるアオギリへ。このアオギリについても事前につちくめで絵本を見て学習していました。目の前のスイッチを押し「アオギリのうた」を聞きながら、被爆したアオギリの実物を見ました。幹の部分が焼けているにもかかわらず、多くの葉を芽吹かせているアオギリに対し「すごい！」と言われる仲間もいました。そして最後に、資料館の中へ。展示されているものの中には、絵本で読んだ「伸ちゃんの三輪車」があり、じっと見つめられていたり、他にもボロボロになった服を見ました。「こんな服着たい？」と聞くと「着たくない」と言われていました。

今回の平和学習を通じて、千羽鶴や平和公園にある建物の意味等をこれまでより理解された仲間。毎年やってくる8月6日の時に今回の平和学習のことを思い出してもらえるといいなと思います。また、これらを踏まえた上で、つちくめで仕事ができる喜びを感じ取ってもらえれば嬉しいです。



相談室より

前回、障害福祉サービスを利用する目的の一つに将来に備えるということがあるとお伝えしました。

端的に言えば、「親亡き後のために備える」ということです。

親兄弟が高齢になって、仲間の面倒がみれなくなった時に、家族代わりに面倒みてくれるのは、ヘルパー、グループホーム、入所施設などの福祉サービスではないでしょうか？

家族が年取ってから、考えるのでは遅すぎます。何十年と、家族だけの支援で生活していると、急にヘルパー、ショートステイ、グループホームという福祉サービスになじめるものではありません。

入浴をヘルパーさんをお願いしようとしたら、家族以外の方が体に触れるのを嫌がる仲間もいます。散歩をヘルパーさんと一緒に行ってみようと、粘り強く毎週、ヘルパーさんが散歩にいつてくれました。そして、3年たったら、ヘルパーさんが来たら、うれしくてたまらないと「ハグ」してくれるそうです。

なじみの関係を作ることが大切なのです。若い時から、親離れ、子離れの訓練をしておくことが必要です。

(相談員 大島)

♡ ♡ **ご寄付をいただきありがとうございます** ♡ ♡

○ フタミ建設様、神堀様、石ヶ原様、隅廣様、松浦様よりのご寄付